

【入試ガイドブック_〈問1〉】

2025 年度入試 十文字学園女子大学 教育人文学部

文芸文化学科 総合型選抜
課 題（小論文）

【注意事項】

- 1 開始後、小論文用紙の所定欄に受験番号と氏名を記入してください。
- 2 [A]・[B] の2つの課題のうち、いずれか1つを選んでください。
- 3 選択した課題の記号（AかBのいずれか）を解答用紙の題名欄に記入し、
各自が自由に考えた題名を書いてください。
- 4 小論文用紙は、横書きで記述してください。
- 5 文字数は 720 字以上 800 字以内です。

【A】

以下はマスクの使用がコミュニケーションに与える影響について述べたものです。あなたはマスクの使用とコミュニケーションの関係についてどのように考えますか。具体例を挙げ、自身の経験を踏まえながら、自由に論じてください。720 字以上、800 字以内。

なお、解答用紙の題名欄には、各自が自由に考えた題名を書いてください。

(声) 笑顔のコミュニケーションまた

オンライン家庭教師 カセルマン智子 (カナダ 45)

4 月中旬から約 1 カ月、カナダ・ウィスラーから東京に里帰りした。現地では 3 月にマスク着用義務が緩和され、病院や空港以外の街中ではマスクを見なくなった。代わりに増えたのは満面の笑み。自転車に乗ったり広い公園に出かけたり、マスクを外せる条件下で新鮮な空気を求めてきた人々にとって待望だった。

だから、周りに人がいない道でもマスクをする日本の様子には大いにカルチャーショックを受けた。そして、どこことなくコミュニケーションがぎこちない自分に気付いたのだ。

表情から読み取れる情報は計り知れない。東京ではどう相手の気持ちを読み取ればいいのか、私の気持ちも伝わっているのか、と不安になった。人と目が合い口角を上げたものの、マスクではわからないか……と殺伐とした気持ちにもなった。

エチケットとしてのマスクは必要だし、いかにコロナと向き合っていくかは今後の重大な課題だろう。ただ、マスクの安心感と引き換えに表情を忘れ、失っているのではと心配だ。街中で笑顔そのものが見られ、気持ちの通ったコミュニケーションが一日も早く取れるよう切に願う。

(朝日新聞 2022 年 6 月 1 日朝刊 オピニオン 2)

【B】

次の文章を参考にして、あなた自身の中にある偏見について、720 字以上 800 字以内で、自由に論じてください。また、それにふさわしいタイトルもつけてください。

物心ついてから、私は桃色の洋服を着たことがない。親も着せなかったし、自分でもこの色を選んだことはない。

子供の時分、うちでは桃色を卑しむ空気があった。

客の呉れた日本人形が、桃色の腰巻をしているというだけで、父は不機嫌になった。

「これは取り替えたほうがいいな」

手荒いしぐさで、たたみの上にほうり出した。

祖母や母になると、もっと徹底していた。

「嫌な色だねえ」

「カフェの女給さんみたい」

下品。ふしだら。二人の目顔はこう囁き合っていた。

「桃色は敵だ」

というところがあった。

桃色を怖れ憎むことで、嫁姑が団結していた。

物堅い月給取りの家である。

一家の稼ぎ手である父が、「桃色」のほうへ傾くことは、家庭の平和にとって由々しき一大事なのであろう。

女たちが必要以上に桃色を卑しみ、父のほうも、それに同調する姿勢を見せることで、家長の威厳を保っていた。

おかげで、私は今でも桃色に対してうしろめたい気分になる。長い間、馬鹿にしていた相済みません、というところもある。

戦後、桃色はピンクと名を変えたが、子供の頃にしみついた偏見はまだ抜けないのである。

(向田邦子「桃色」)